「取り残された防護服の戦士」

ゆめさんの名前は、「優明」と書きます。優しく明るい人になってほしい、というお母さんの願いがこめられています。ゆめさんのお母さんは、病院で働いている看護師さんです。病院の仕事は、時々、夜勤という泊りの仕事があったり、看護の勉強をしたりといそがしうです。でも、洗濯やご飯、など家の仕事もテキパキこなします。お父さんもゆめさんも手伝っています。お母さんの元氣と明るさにはかきまわしません。ゆめさんにとって、お母さんは、スーパーウーマンです。

そんなお母さんの仕事に大きな変化が起きました。新型コロナウイルスという病気の流行です。このウイルスは、人から人にうつりやすい、という特徴があり、今年になって、あつという間に世界中に広がり始めました。何百万人もがこのウイルスに感染し、何十万人もの方が命を奪われています。新しいウイルスなので、それを予防したり治療したりする薬はまだありません。そして、誰がウイルスをもっているのかもすぐには分からないため、いつ、どこで感染するかも分かりません。そのため、世界中の人が、マスクをしたり手洗いやうがいをしたりするようになりました。外に出るのを我慢して人と近づきすぎない生活をするようにもなりました。日本でも、子どもから大人までみんなが、ウイルスに感染しないように気をつけて生活を続けていました。

それでも、この新しいウイルスは多くの人に広がり、病院に入院する人がどんどん増えてきました。ゆめさんのお母さんの病院でも、たくさんのお母さんを受け入れることになりました。お医者さんも看護師さんも、防護服という特別の服を着て患者さんの治療をします。自分が感染してしまつたら、患者さんを助けることは出来ないからです。ゆめさんのお母さんも「感染しないように毎日とても緊張する」と言いながら頑張っていました。「これじゃあ「白衣の天使」じゃなくて、「防護服の戦士」ね。優しい看護師さんも台無し。でも、しつかり戦つてウイルスをやつつけなきゃね。」と笑いながら元氣に病院に行き、増えてきた夜勤の仕事も頑張つているお母さんでした。また、お医者さんや看護師さんがウイルスに感染しているのではないかと差別を受けているというニュースにも「患者さんが一番苦しんでいるんだよ。その患者さんを助けられるのは、私たち「防護服の戦士」しかないんだよ。」と、ハッキリ言うお母さんでした。そんなお母さんたち病院で働く人たちのために、拍手を送つたり、感謝の言葉を言つたりする人たちも増えてきています。ゆめさんは少し嬉しい気持ちでいました。

ところが、そんなお母さんがこの頃少し元氣がなくなつてきていました。感染しないように気をつけながら、ずっと今でも患者さんの世話をし続けているから、やつぱり疲れが出てきたのかな、とゆめさんは思いました。

そんなある日、夜勤が終わつてお昼に帰つてきたお母さんが、テレビを見ていてポツンと言いました。「なんだか、取り残されている気がする。」

テレビでは、非常事態宣言が解除され、外に出てデパートで買い物をしたりお店で食事をしていたりしている人たちの楽しそうな様子がうつっていました。